

# ウンカ類情報第7号（トビイロウンカ）

令和3年9月3日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

## トビイロウンカが近隣県で断続的に誘殺されています。

### 1 発生状況

8月下旬に実施した巡回調査において、トビイロウンカの発生は確認されておらず、予察灯においても誘殺されていません。また、西三河地域において臨時で本田調査（1地点4ほ場）を実施しましたが、同害虫の発生は確認されていません。しかし、本年は本県への飛来に適した気象条件が7月上旬に7回出現しており、県内各地で坪枯れが多発した昨年と同程度の飛来予測回数となっています（昨年同時期の飛来予測回数は10回）。さらに、岐阜県、三重県及び静岡県では引き続き予察灯で誘殺が確認されています。これらの状況から、**本県においても飛来している可能性が十分にあります。**

現在のところ本県において、トビイロウンカによる被害（坪枯れ、図）は確認されていません。しかし、同害虫がほ場に定着している場合、**第3世代幼虫の成長期である9月から10月にかけて坪枯れが発生する可能性があります。**ほ場に坪枯れの初期症状が見られないか十分注意してください。

### 2 防除対策

トビイロウンカの防除適期は各世代の幼虫発生期となりますので、表1に記載された時期を参考に防除を検討してください。薬剤については、表2を参考にするとともに、収穫前日数を考慮して選定しましょう。トビイロウンカは株元に生息しているので、液剤及び粉剤による防除を行う場合は、薬剤が株元まで届くように散布しましょう。坪枯れの初期症状が確認された場合は、防除を実施しましょう。また、収穫適期がきたら速やかに収穫しましょう。

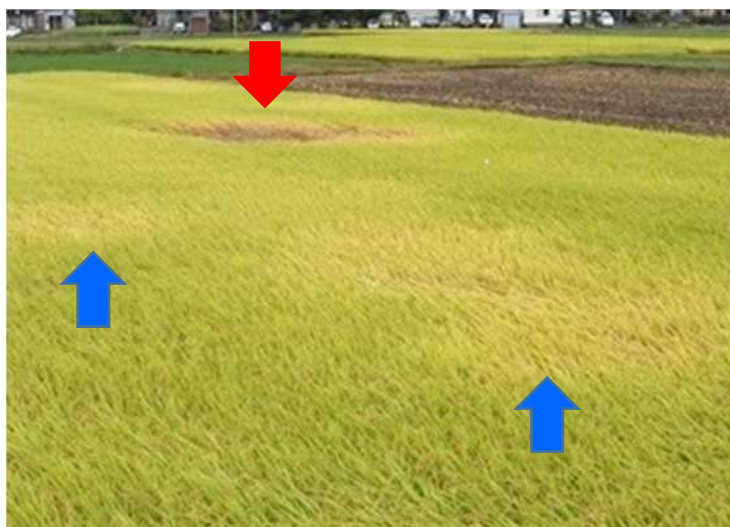


図 坪枯れ（赤矢印）及び坪枯れの初期症状（青矢印）

表1 有効積算温度をもとに計算したトビイロウンカ幼虫の発生予測時期

飛来予測		名古屋	岡崎	豊橋	新城
5月中下旬飛来群	第3世代幼虫	—	9月上旬	—	9月上旬
6月上旬飛来群	第3世代幼虫	9月上旬	9月上旬	9月上旬	9月上旬 ～中旬
7月上旬飛来群	第2世代幼虫	9月上旬	9月上旬	9月上旬	9月上旬
	第3世代幼虫	9月下旬 ～10月上旬	9月下旬 ～10月中旬	9月下旬 ～10月上旬	10月上旬 ～中旬

各地のアメダス平均気温から予測（9月3日計算）。

9月2日までは実測値を、それ以降は平年値を用いて計算。豊橋は前年値を用いて計算。

表2 トビイロウンカに対する主な防除薬剤

薬剤名	成分名	使用時期	本剤の使用回数	IRACコード
トレボン乳剤	エトフェンプロックス	収穫14日前まで	3回以内	3A
キラップフロアブル	エチプロール	収穫14日前まで	2回以内	2B
アルバリン/スタークル顆粒水溶剤 スタークル液剤10	ジノテフラン	収穫7日前まで	3回以内	4A
エクシードフロアブル	スルホキサフロル	収穫7日前まで	3回以内	4C
エミリアフロアブル	フルピリミン	収穫7日前まで	2回以内	4F

使用回数は同一成分の剤を含む成分ごとの総使用回数に注意する。

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRACコードの詳細は、[https://www.jcpa.or.jp/lab0/pdf/2020/mechanism\\_irac02.pdf](https://www.jcpa.or.jp/lab0/pdf/2020/mechanism_irac02.pdf)を参照する。

薬剤の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守り、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。